

田中構成員 提出資料

■ 1. キーワード

- ・ オープン
- ・ ソフトウェア化
- ・ コミュニティ
- ・ Individual (個人)
- ・ スタートアップ

■ 2. コメント

世の中がハードウェアからソフトウェア中心になり、そもそもハードウェアの中身も多くがソフトウェアになっています。

また、コードファースト・サービスファーストで、まず動くシステムを作ってしまった、それがデファクトスタンダードになると言う世界が訪れています。

さらに、ソフトウェア開発者が「工員」に近い人月で働く世界から、イノベーションにおけるソフトウェアの重要性が高まるにつれて、ここ最近では「職人」に近い、その人でないと実現できないものが増えてきています。

このような事から、国境を越えて形成されるコミュニティと、それに参加する個人に対してフォーカスすることが重要であり、その中でも日本国内でイニシアチブを取る人を、いかに支援していくかが課題と言えます。

ITに関しては水平分業のパーツ化も引き続き重要ですが、幅広いアーキテクチャの理解が必要となっており、レイヤーごとに何かが起こるわけではなく、「何をしたいのか」という目的志向が高まっています。

そのため、より明確なビジョンやリーダーのやりたい事が大切になっており、業務ではなくそのビジョンに共感して能動的にプロジェクトに参加すると言う動きになってきました。

また、エンジニアリングだけではなく、ビジネスの世界においてもスタートアップという形でイノベーションを変える人材が出てきており、それらの支援も重要になっています。

これらのことを、国の大きなビジョンとして明確化して、メンタル的にも環境的にも後押しすることが重要であると感じています。

■ 3. 国の役割

- ・ 大きなビジョンを示す

ムーンショットのような、荒唐無稽なビジョンも含めて、明るい未来を示す

- ・ フィールド

日本は規制が多く、やりたいことができないことも多いが、アジアで最も物事が進めやすい国になればどうか？

- ・ 民間には資金があふれており、しかしそれらが使われずに内部留保されている状況であり、むしろそれらをイノベーションにつなげられるよう、新しい起業家やエンジニアに供給されるような施策だけでも十分ではないか？